

平成30年度 県立神戸工業高等学校 学校関係者評価シート 集計表

A:できている B:まあまあできている C:あまりできていない D:できていない

人数			
A	B	C	D
4	3	2	1
2	7	0	1
1	8	1	0
4	5	0	1
3	5	1	1
3	6	0	1
6	2	0	1
3	2	3	1
5	3	1	1
4	4	1	1
4	5	0	1

平均	差	H29 平均	H28 平均
3.00	-0.86	3.86	2.67
3.00	-0.71	3.71	3.00
3.20	-0.37	3.57	3.33
3.00	-0.57	3.57	3.00
3.10	-0.61	3.71	3.00
3.44	-0.27	3.71	2.83
2.78	-0.37	3.14	2.83
3.20	-0.37	3.57	3.00
3.10	-0.61	3.71	3.17
3.20	-0.51	3.71	3.17

1	開かれた学校づくり	学校評議員会や保護者会を開催し、学校の現状報告を行っている。また、中学校訪問やオープン・ハイスクールの他、ホームページを頻繁に更新し、情報発信を積極的に行っている。
2	安全・安心な学校づくり	保護者・地域・関係機関と密接に連携し、危機管理マニュアルに基づいた安全管理を行っている。また、いじめの未然防止・早期発見につとめ、安心して学べる環境づくりに力を注いでいる。
3	生徒の学力向上を目指す	家庭との連携を密にし、授業への出席状況や学習結果を連絡し、学習習慣の確立に努めている。また、授業改善など指導力の向上に努めている。
4	生徒指導体制の充実を図る	生徒の実態を把握することによって、きめ細やかな生徒指導体制を確立し、全職員の協力のもとに推進している。また、部活動の活性化、生徒会を中心としたボランティア活動の充実にも取り組んでいる。
5	進路指導を充実する	各科・学年と連携しながら、きめ細やかな指導を行うことができるような進路指導体制を実践している。また、生徒の進路意識を高めるために「進路通信」を定期的に発行するなど、情報を分かりやすく提供している。
6	保健指導を充実する	健康診断の実施や給食指導の充実によって、生徒が健康な心身を育成できるように取り組んでいる。また、キャンパス・カウンセラーとの連絡を密にとるなど支援体制を強化することで、教育相談の充実を図っている。
7	図書・情報教育の充実と校務の情報化を図る	書籍や視聴覚機器を整備することによって、読書活動や情報教育を積極的に推進している。また、職員は情報リテラシーを理解するだけでなく、ICT化によって校務の効率化を図っている。
8	適切な学級経営・学年経営を行う	学年・学級の具体的な経営方針を立てて、学年通信などによって情報を提供するとともに、目標達成に向けて努めている。また、面談や三者懇談を行うなどして、生徒の内面理解に取り組み、情報を保護者と共有している。
9	生徒の能力を伸ばす授業を行う	生徒の実態を把握し、生徒の学習意欲を引き出す教材研究や、わかりやすい授業を展開できるよう研修に取り組んでいる。生徒の基礎学力の定着を目的とした授業にも力を入れている。
10	特色ある教育の実現を行う	生徒の「ものづくり」に重点をおいた工業教育の趣旨を理解させ、工業教育フェアへの参加や資格取得に積極的に取り組ませている。創意に満ちた地域貢献事業を展開するなどして、地域との共生に努めている。

記述意見

質問 1	育友会や担任の先生との会話の中で現状を知ることが出来て良い。 定時制高校（工業）県神工のオンリーワンのものを創り上げることの検討。
質問 2	連絡網（タテ・ヨコ）と生徒への配布（個人情報に関わることもあるが）
質問 3	担任教師にめぐまれたと思う。生徒は先生を選べないため、教師によるフォローのバラツキが無いようにして下さい。
質問 4	進学・専門学校入学のための集中教育・指導も必要では。 OKの事例ばかりでなく、NG（停学・退学）のケースも事例展開し危機感の共有も必要では？
質問 5	
質問 6	
質問 7	
質問 8	生徒はNGケースを親に報告しない。隠す傾向にある。異常（いつもと違う）を検知したらすぐに学校と共有したいと思う。
質問 9	
質問 10	PC（パソコン）実習時間（ワード・エクセルの基本）を充実する。